

日本の女性の権利 Women's Rights in Japan

ジング・ウー
Jing Wu

82-372: Advanced Japanese II

1. はじめに

日本では女性の権利が大変だ。安倍晋三は内閣に四人の女性がいる。その中で一人は幹部に女性の参加を進める大臣だ。その人の役割は2020年まで女性は政府や幹部に三割占めるのだ。どうして日本の女性の参加はこんなに低いのか？なぜ日本の出生率は低いのか？それに、なぜアメリカの女性の権利は達成しているか。まず、19世紀に日本には良妻賢母と言う考え方があった。そういう考え方は女性はいい嫁といい母になるのだ。それなので、日本の女性は雇用可能人口に入っていなかった。今まで日本の働く女性の数は増えてきたけど、まだ足りない。女性は雇用可能人口で少数だ。このトピックを選んだ理由は私が先学期に日本文化プロジェクトのために日本の女性差別を調べたので、日本の女性の権利がもっと知りたい。今の暫定的な結論は日本の均質な社会で新しい考え方を受け入れにくいから、今の女性の権利の動きは遅いと思う。

2. なぜ日本の女性の権利は遅れているか

2.1. なぜ日本には女性差別があるのか

19世紀、日本には良妻賢母と言う考え方があった。それで日本の女性は良妻賢母になった。つまり日本の女性の優先の義務は家族と子どもの教育だった。女性は会社の花と言っていた。会社で基本の義務だけをしていた。2012年の調査によると51パーセントの日本の人口は女性の役割が主婦だ。それなのに、最近日本の会社の女性の役割は変化した。若者は女性のステレオタイプを忘れて、日本の女性を高めて、日本の女性はもっと大切な義務が出来た。たしかに差別の法律が出来て女性の就職率が増えている。でも、世界と比べてまだ日本の女性差別が大変だ。国連開発プログラムによると、日本は世界の一番豊かな国の中で女性差別が一番強烈だ。まだ女性の良妻賢母の考え方があ

る。女性は出生する時に70パーセントが仕事をやめて主婦になるわけだ。それは有給休暇が足りなくて、女性は仕事と子供の育て方の二つが共に出来ない。仕事を止めるしかない。それに子どもが育ってから、仕事に戻りにくい。日本人ゲストインタビューでの古田正樹さんに「日本の女性の収入は男性のほうより低いか」と聞いて、古田さんは「女のほうが低いと思う。得に女のCEOはほかの職業より大変だ」と返事した。ことに大抵女性の仕事は男性のほうより悪くて給料が低い。女性の給料は男性の給料の六十パーセントだけで、重役にあまりなれない。ペテック貴子さんに「なぜ日本の女性の権利は遅れている」と聞いて、「日本の伝統は女性が家に泊まって、男性は外で働いてお金を得るので、男性の意見は重要だ」と言った。だから、日本の女性の権利の推移は遅い。

2.2. なぜ日本の女性は工学や政府に少ないか

ライティングアシスタントの会話セッションで、みかみさんは「工学分は全部男性だ」といった。確かに世界では工学系に女性が少ないけど、アメリカと比べて、日本の場合は深刻だ。日本の大学の女子校生は大学全体では44パーセン。理学専攻では26パーセントだ。工学専攻ではたった13パーセントだ。15歳の女子生徒に対する調査は「将来は、理系の職に就きたい」と聞いて、日本の女子生徒はただ16.7パーセントぐらいが賛成した。でも、アメリカの女子生徒は43.6パーセントぐらいが賛成した。なぜ今の日本の女性は工学のような専攻にしたくないか？この質問を長谷川みどりさんに聞いて、長谷川さんは「確かに今の日本の女性徒の成績は男性徒のほうより良いけど、日本の女性は工学と似ていない。日本の女性は小さい時から女性が工学や政府のような領域で達成ができないという考え方を覚えて、大人になっていて人文科学のような領域に入る」と答えた。私の暫定的な結論はカーネギーメロン大学みたいに女性を引き付ける、「女子校生は工学系で達成ができる」と唱える。

2.3. なぜ日本の出生率が低いのか

最近の三十年間に日本の出生率が減っている。1981年の日本の出生率は一点七パーセントだが、2015年の日本の出生率は一点四パーセントだ。なぜその低下があるのか？四つの理由があると思う。一つ目は結婚率の低下。1990年の日本の女性の生涯未婚率はただ5パーセントだけど、2010年の日本の女性の生涯未婚率は10.6パーセントだ。そういうので、結婚していない人の数は増えて、女性の出生率が減る。二つ目の理由は晩結婚による出生率の低下だ。古田正樹さんによると、日本の女性は30歳ぐらいに結婚する。日本の25歳から29歳までの女性の初婚率は最近の二十年間70パーセントぐらいから60パーセントぐらいまで減った。むしろ、日本の35歳から39歳までの女性の初婚率は4パーセントぐらいから28パーセントぐらいまで増えた。果たして晩結婚率が増えて出生率が減るわけだ。三つ目の理由は夫婦の出生率の低下

だ。確かに健康な社会の夫婦の理想子ども数は2.5だが、日本の夫婦の最終的な予定子ども数は2.1だ。最後に、日本の女性は出産休暇を取得できない。日本の妊娠女性は出産休暇を取得すると、収入が止まって、会社に戻れない。だから、日本の女性はもっと長い時間に働くために遅く結婚して子どもがほしくない。

3. おわりに

結論として、日本には女性差別がある。日本の女性はいろいろな問題がある。まず、日本の女性の仕事環境は不当だ。日本の女性は男性と比べて、もっと詰まらない仕事をして、給料は男性のほうより低い。日本の女子生徒の成績は男子生徒より上手いなのに、主席の女性は少ない。次に、日本の女性は工学や政府のような領域に少ない。日本の女性子どもの時から工学や政府の領域で達成できないという考え方を受け入れて、大人になっていて人文科学のような領域に入る。最後に、日本の女性は出産になった時、出産休暇を取得すると仕事を止まって会社に戻れない。この三つの問題は女性の権利を侵した。でも、今日本ではたくさん女性の権利の組織があって、日本の女性の権利を磨いている。今の暫定的な結論はもう始まったけど、もっと進めればいいと思う。日本の会社は出産休暇を取って会社に戻れることがある。それに、今の日本の男性は昔の男性と違って家事や育児をしている。そして日本の男性も育児休暇を取得し始めるのだ。そうすれば、女性を助けてもっと重要な仕事ができる。日本の大学も女性の権利を賛成している。今の日本の大学は女性の科学や工学のプログラムと組織が開いて女性はもっと科学や工学に興味があって、女子校生の人口は増えている。そのままのように速くすれば、日本の女性は安心して早く結婚して、妊娠が早く起こっているはずだ。確かに日本の女性の権利は遅れているが、ゆっくり改良していて、西洋の国のほどに届ける。それに、もし日本の女性の権利のプロテストがあれば、女性の権利はもっと早く変化するかもしれない。

参考文献

<http://www.latimes.com/world/asia/la-fg-japan-women-politics-20141104-story.html>

<http://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN>

<http://www.umurausu.info/blog/archives/001936.html>

<http://www.ipsnews.net/2013/01/japan-values-women-less-as-it-needs-them-more/>

<http://sirabee.com/2015/08/02/43249/>

<http://dual.nikkei.co.jp/article.aspx?id=3428>